



今年の高校入試の分析からこんなことがわかりました！

合格者の理科の平均点は、56.1点

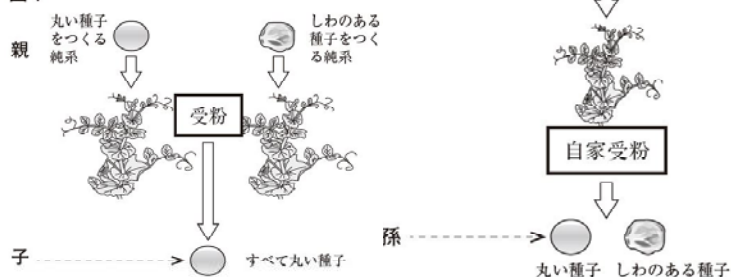
☆正答率(※)が高かったのは、基礎的・基本的な知識を問う問題です。表や図から適切に情報を読み取り選択する問題や、電気回路の特徴やオームの法則に関する問題などで正答率が高く、定着が図られています！



特徴的な問題を見てみましょう！

5 1 (生物的領域)

図1



<標準解答>

(例)

(選んだ種子を育てたものを、)しわのある種子をまいて育てたものとかけ合わせて、できた子にはすべて丸い種子が現ればよい。

(3) 孫として得られた丸い種子の中から1つを選んだ。このとき、選んだ種子が純系であると言えるためには、選んだ種子をまいて育てた後、どのようなかけ合わせを行い、どのような形質が現ればよいのか、簡潔に書きなさい。

<ねらい>

この問題は、エンドウを利用した実験を素材として、検証実験としてふさわしい実験方法の設定を、結果を予測しながら行うなどの科学的な思考力や論述する力をみる問題でした。

<分析>

正答率は31.8%でした。課題としては、遺伝子や遺伝の法則に関する知識を活用できていないことや、読解力・表現力が身に付いていないことなどが考えられます。

<提案>

授業では、自分の意見を伝えたり、他者の意見について考察したりする機会をつくることで、根拠に基づいた考察と表現力が身に付くような学習活動を行うなどの工夫も必要です。



「分かる！・できる！」まで教えよう！(授業改善のkeyword)
各問いの出題内容・ねらい及び正答率は裏面をご覧ください！
詳しい分析は、報告書や県教育研修センターのHPをご覧ください！

(※)正答率については、合格者4,055人の中から、無作為に抽出した630人(15.5%)分のデータです。